

# ごみを — 京都市ごみ減量推進会議 —

# 減らそう

No.40 2009.6

— 澤信三郎帆布を訪ねて

## 道具袋 一澤信三郎の世界

色鮮やかに染め抜かれたトートバッグを見せてもらった。天然生地の上を走るミシンの縫い目が手仕事の美しさを映し出している。

一澤信三郎の工房にはコンピューターに頼らない昔ながらのミシンが並ぶ。

戦前からのミシンもいまだ現役として活躍しているという。

職人さんはひたすら手足の感覚、指先の感触をよりどころにレバーを合わせ、ペダルを踏みさまざまなミシンを絶妙に動かす。

カタカタ、コトコト。ミシンの音がトートバッグの縫い目から聞こえてくるかの想像の世界に引き込まれる。

裁断、折り、バンド付け、金具の穴あけから取り付けまで、すべてが手技。各々の持ち場の職人さんがきっちりと自分の仕事を果たす。

聞けば、下職さんのハサミはひとり一人の名前入りのものを使うという。

人の癖がついたハサミは使わない。

さて、こう書けば随分ご高齢の職人さんが工房でひたすら汗を流す風景をイメージするが、さにあらず。多くの職人さんが30代を中心とした若者である。

販売スタッフも職人さんも殆どが正社員である。

“安心して働けるいい環境の中からいい仕事は生まれる” ここにも一澤信三郎の精神は貫かれる。

一澤信三郎帆布の作品のひとつひとつには、まぎれもなく誠実で濃密な時間が宿っている。

作品はやがてお客さまにひきとられ、道具として使い込まれ、愛着というもうひとつの時間が刻まれる。

聞けばたくさんのお客さまが、使い込まれてすりきれた愛用品の再生を願って修理に持ち込まれるという。よくここまで使ったなというものが並べられる。

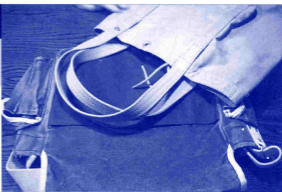
一澤信三郎帆布のすべての従業員は「おかえりなさい」と言って、これらの品物を迎えと聞かされた。

客である若者は言う。「修理したとわかるほうがカッコいい。これが僕のスタイルだとわかることで自分を表現したい」と。

工場ですべての部品が取り揃えられている。それが20年以上を経た品物であっても。

今日の工業製品のように一体型になっていて一部分が壊れたら修理不可能というのではない。

一澤信三郎は言う。「昔は作る人と使う人が対面していた。そこからは身近かで濃い情報が入ってきた。今はそれが無い。でも、わたしたちは、そこを大事にしていく。お客さまが望まれることに耳を傾け、なお、それだけでは面白くないから、そこに経験と工夫を加え、時代の空気を読んで行く。いつも新しい努力を見てもらいたいんや。」と。



一澤信三郎さんと奥様の恵美さん

## 『2R(にあって)型エコタウン』構築に、 知恵と参加を求む

京都大学環境保全センター助教  
2R型エコタウン構築事業実行委員会 浅利 美鈴

### 『2R(にあって)』をご存知ですか？

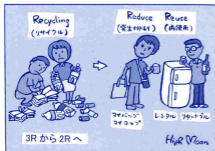
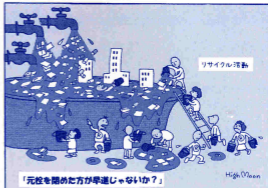
「3R(すーりーあーる)」という言葉の認知度は確実にあがってきています。環境省の2007年度の調査では、「意味を知っている」割合が平均で約2割、学生では4割だったのですが、2008年度に私たちの研究グループが実施した調査では、平均で約4割、学生では7割と、大幅にあがりました。おそらく、マスメディアも含めた様々なキャンペーンや地域における地道な努力、環境教育などの成果でしょう。しかし、国民の半数近くの方には、まだまだ浸透していないというふうにも考えられ、普及の余地はありそうです。

「2R(にあって)」についてはどうでしょう？調査は行っていませんが、私がいろいろな場所で会話したり、講演したりしている感想では、「ほとんど知られていない」というのが現状のように思えます。

### 『2R』には元栓を閉める覚悟とアイデアが必要

本紙の読者の皆さまには失礼と承知で、この場をお借りして、この「2R」の意味と意義を確認させていただきます。

私が長文で説明するより、ハイムーンまんが「元栓を閉めた方が早道じゃないか?」を見て頂くのが一番よいのではないかと思います、お借りしました。「大量生産・大量消費・大量廃棄社会」は、「ごみ問題」として様々な形で私たちに襲いかかってきました。それに対して、ここ最近頑張ってきたのが「リサイクル活動」です。これはこれで、非常に重要な取組であり、リサイクルにより、多くの資源やエネルギーが節約できています。しかし、まんがには、一人、はたとその手を止めて、蛇口を指差している人が描かれています。これが、私たち、京都市ごみ減量推進会議「2R型エコタウン構築事業実行委員会」(本実行委員会)でもあるのですが……



次のまんが「3Rから2Rへ」が、その私たちの提案です。つまり、出てきたごみにリサイクル重視で対応するのではなく、そもそもの発生抑制「リデュース」や再使用「リユース」にも知恵を絞るうではないか?というもの。これは、3Rの優先順位「リデュース・リユース・リサイクル」からも明らかに正しい方向性なのですが、ただ、実際には勇気と覚悟が要るものです。なぜなら、現在の社会は、「大量生産・大量消費(大量の物)」をベースに構築されており、それを「2R型=少量の物」にするためには、経済社会を含む大きな変換が必要であるからです。

これは、人類の新しいチャレンジであり、物が大量ではなくても、価値を大きく、経済的にもバランスがとれるようにするための知恵が求められます。

### 『2R』への知恵と参加を求めながら、奮闘中!

前置きが長くなりましたが、そのようなチャレンジを、まずは地域単位で試行し、実践していく!というのが本実行委員会のミッションです。現在、次のようなプロジェクトが進行中です。

- ◆ リペア・リメイク情報発信「もっぺん」
- ◆ エコ商店街事業
- ◆ 買い物袋持参キャンペーン
- ◆ リユースびんの購入・利用促進

また、冒頭に述べた通り、3Rや2Rの意味や意義の普及もまだまだ重要と考え、普及啓発事業にも力を入れています。個々のプロジェクトの内容を含め、充実した普及啓発用資料を準備しておりますので、是非、個人や団体での学習にお使い頂き、参加の仕方を探っていただければと思います。

本実行委員会の取組も今年度で3年目となります。もちろん、2R型エコタウン構築は簡単ではありませんが、各プロジェクトに参加する人の広がりやプロジェクトの進化(浸透度)を見ると、大きな可能性を感じます。今年度は、今後の展開を考える時期でもあります。是非、一度、私たちの奮闘に触れ、ご意見やお知恵をいただければと思います!

#### 【2R関連普及啓発用資料】

- ・平成19年度 2R型エコタウン構築事業成果報告資料
- ・リペア・リメイク情報発信事業報告書
- ・エコ商店街報告書
- ・リユースびんの広報啓発・識別表示と購入・返却に関するモデル事業報告書
- ・絵解き2R

※興味のある方は事務局にお問合せください。

# シリーズ 「みんなで考える」

## お総菜容器のリユース実験

### 「おかえりプレート」でうちエコしましょ。をふりかえる

「おかえりプレート」。その名前の響きが騒々しい世の中にあって心地よい。

肉声が宿るこのネーミングに足を止めた人も多かったのでは。

「お総菜容器のリユース実験「おかえりプレート」でうちエコしましょ。」は平成21年2月18日からの3週間（回収は3月末まで）、高島屋京都店、東京（日本橋）店、玉川店のRF1（株）ロックフィールドの総菜売り場で展開された。メニューは①ハンバーグドリア②じゃがいもグラタンの2品、使用する容器は磁器製（白色、蓋のみプラスチック製）のもので簡易なものではない。

容器ごと持ち帰り、返却に来ていただくとキッシュがもらえるという企画である。

事業は京都市・京都市ごみ減量推進会議・京都大学環境保全センター・（株）高島屋・（株）ロックフィールドなどの事業者により「京都エコ容器包装・商品推進協議会」を結成し、国の補助事業として進められた。

当初目標では3店で1260個であったが、1907個の商品が販売された（表1参照）。返却率は21%強にとどまった。京都大学環境保全センターの調査・分析によると、DM送付者1800人のうち、77%が購入意向を示しており、アンケート調査95サンプルのうち今後も「おかえりプレート」を利用したいかの設問に85人が「はい」と答え、「いいえ」は1人であった。非常に高い関心を示していることがわかる。

図1を見てみよう。「おいしいメニューなので食べてみたい」という項目の数値が高いが、これには容器入り販売（しかも簡易な使い捨て容器ではない）という従来と違ったコンセプトがあたたく映ったことが効果していると思われる。

それが「そのままテーブルに出せる」という付加価値につながっている。

容器包装を削減するには容器をそのまま付けてしまうという逆転の発想に可能性を感じる。又、「使い捨て容器はすぐに“ごみ”になる」という意識は充分高く、家庭の台所内で無駄な容器がかさばることを消費者は嫌っていることを表している。勿論、環境に貢献できるなら協力しようという一面は今や充分に備わっている。

「うちエコ」の認知度は残念ながら、右図にあるように低かったと考えられる。

- 環境問題に対して、少しでも貢献できればと思ったため
- 使い捨て容器は、すぐに「ごみ」になるので、さげたいと思ったため
- おいしいメニューなので食べてみたいと思ったため
- そのままテーブルに出せるのが便利だと思ったため
- 「うちエコ」を実現してみようと思ったため
- 容器を返却するとプレゼントがもらえる、お得だと思ったため

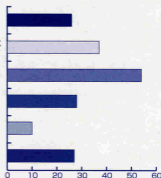


図1 利用しようと思った理由

「おかえりプレート」が概して好意的に受け止められた要因を戦略面も含めてここにまとめてみる。

#### ●利用者数

表1 おかえりプレート利用者数等

利用者数	ハンバーグドリア	じゃがいもグラタン	総数	購入客数	返却数	返却率 (%)
京都高島屋	329	475	804	586	171	21.3
日本橋高島屋	329	430	759	543	160	21.1
玉川高島屋	148	196	344	251	83	24.1
合計	806	1101	1907	1380	414	21.7

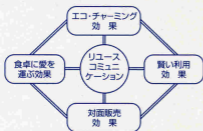
\*返却数は、3/25までの累計

\*購入客数はドリア、グラタンの各単品購入、2種購入ともに含んだ数値

(データ:京都大学 環境保全センター)

## 「おかえりプレート」の可能性を探る

「おかえりプレート」戦略の構図



## (2) 賢い利用効果

賢い利用は既に始まっている。ワイズ・カスタマー（賢い顧客）はこう考える。

「売場で商品を包んでくれるあのバリバリのプラスチック容器、また家に帰ったら私の台所で、すぐにごみになるんだな。2、3軒売場をまわったら、もうパッケージを買っているみたい」これをどう考えるか。購買時点のインベションが始まる。

## (3) 対面販売効果

今回のキャンペーンでは、売場の店員さんが随分「おかえりプレート」について、顧客との対話に努力したと聞いている。そここのところの効果は大きい。対面販売に本来備わっていたものを考えよう。消費者の目を楽しませるウィンドウショッピング効果、店員との何げない対話。サンキューコール、そこに顧客と一緒に始める新しいコミュニケーション戦略がある。RF1の売場でできると顧客はあの楽しいサラダの盛りつけも容器に入れて欲しかったと推測するのは考え過ぎか。決してそうではないと思うのだが。

## (4) 食卓に愛を運ぶ効果

もともとRF1顧客には一人暮らしの高齢の方も多かったと聞いた。

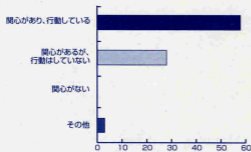
簡易な容器で一人で食べてもらうのは寂しい。この発想から始められた企画であることを忘れてはならない。RF1は「総菜を売る会社」しかしエコロジー発想ではこうなる。RF1は「みんなの食卓を豊かに創造する会社」。そこに新しい事業発想が見えてくる。おかえりプレートは今後もさまざまなニーズに対応できる可能性を持っている。

そのニーズとは、共働き向けのニーズ、巣ごもり族ニーズ、母と子の食卓時間ニーズ、コミュニティニーズ、OL・サラリーマンニーズ、アレルギーの人々へのニーズ、ライフイベントニーズ、お弁当ニーズなどさまざまである。

容器も季節によって、あるいはニーズによって変えられれば面白くなるだろう。今後の健闘を祈りたい。

文・大橋 正明

(参考)



回答者の環境問題への関心や行動

おかえりプレート「成功」の要因を以下のように分析してみた。

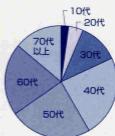
## (1) エコ・チャージング効果

おかえりプレートのネーミングがひとことで事業コンセプトを表している。

人間同士のあたたかいコミュニケーションを誘っているところに好印象を持った人たちが多かったと考える。

また、本格的な容器の利用と、売り手と買い手がその容器を通してつながっていくという「協働」の呼びかけが新鮮に映ったことは想像できる。

「良いことをしたい」「楽しみながらもちゃんとエコ」は、これからの消費者のニーズである。



回答者の年代

(データ:京大 環境保全センター)

聖護院ごみ減量推進会議 会長

### 今西 恒子さん

「50歳になったら、自分のため、社会のために時間を使おう。」

家業の「備後屋旅館」の女将さんとして、仕事に追われる毎日であった今西さん。50歳を目前にして、「もう少し自分の時間を大切にしようか」と息子さんから助言を受けたことで、女性会や地域での活動に積極的に参加するようになりました。

誠実で、温和な人柄が当時の会長さんたちの信頼を集め、気付いた頃には女性会や左京保健協議会連合会の会長に選ばれるなど、地域活動をリードする存在になっていたとおっしゃいます。



お話を伺ったお部屋には、手作りの壁掛けや小さなオブジェが並べられ、訪れる人の目を楽しませてくれます。これらの作品は、高齢者や子どもたちと一緒に作ったものが多く、身近な物を再利用しているのが特長。薬の容器を小さな花瓶に見立てた素敵な一輪挿しは、次回のおふれあいサロンのために担当のメンバーと一緒に試作されたものです。「毎日の生活の中から、面白いアイデアが出てくるのよ」と今西さん。その笑顔からは、ものに対する愛情が伺えます。

環境活動については、平成10年から近隣の3学区に声掛けをして、使用済みてんぷら油の回収を始めました。そして、平成14年からは現在の聖護院ごみ減量推進会議が発足し、地域の皆さんに「美しい地球を次の世代に

残しましょう!」と呼び掛けながら、少しずつ環境への意識を高めてきました。過去5年間で、てんぷら油の回収量が2倍になったことも、環境への関心層が広がったことを表しています。更に「エコ地蔵盆」にも取り組み、若い世代の人々が中心となって地域のコミュニティを守り伝えていきます。

聖護院ごみ減量推進会議のもう一つの重要な取組として、京都市の環境施策を支えるモデル地域としての役割が挙げられます。京都市では、平成18年度から家庭ごみ・資源ごみの分別回収・有料化がスタートし、翌年からはプラスチック容器包装の分別回収が加わりました。モデル地域では全市での取組前に、分別にかかる手間や、家庭ごみ有料指定袋制などについて、市や専門家と共に検証し、改善点を提案します。地域のコミュニティが確立されていないと、地域住民の協力が得られにくく、実験も進みません。今西さんは、実験が行われる度に講習会を開いたり、説明に行ったりと、市と地域住民の架け橋として長年に渡って活躍されています。昨年10月からは生ごみ等の分別回収のモデル実験にも取り組んでおり、聖護院ごみ減量推進会議の皆さんの声が、未来の環境施策に活かされています。

—もの・ひと・地球に感謝— そう語る今西さんの笑顔が、とても活き活きと輝いていました。

取材日:平成21年4月28日  
取材:松村 香代子

#### 聖護院ごみ減量推進会議

- ◆発足:平成10年2月
- ◆使用済みてんぷら油の回収:毎月第2水曜日

上:目からを用いた  
ひな人形のモチーフ

下:牛乳パックから  
作られた着おき



右:薬の容器を用いて  
作られた一輪挿し



## 新しいタイトルを募集します!

この度、会報誌を4ページから6ページに、モノトーンから一色刷りにリニューアルいたしました。  
このリニューアルを機に、会報誌の新しいタイトルを応募します!

「ごみを減らそう第1号」は1997年3月に発行されました。それから12年が経過し、環境問題への意識の高まりや、家庭ごみ有料化等を通して、社会のごみに対する認識も大きく変わってきました。  
これからの会報誌では「ごみ」を出さない社会のシステム作りや、「ごみ」の出ないライフスタイルの構築を目指し、より充実した内容でみなさまに情報をお届けして参りたいと思います。「ごみ」ということばにとらわれず、環境にやさしい生活・社会を推進していく会報誌に似合うてきなタイトルを読者の皆様から募集します。

### ご応募の際は

- ①お名前 ②ご住所 ③電話番号 ④新しいタイトル案 ⑤「ごみを減らそう第40号」を読んでのご感想・ご意見  
⑥今後、取り上げて欲しい内容

※消印有効

以上6点を明記の上、下記までメール・FAX・郵送のいずれかでご応募ください。応募の締め切りは**8月20日(木)**です。

### ほんと!

- 大賞(1名)には一澤信三郎帆布よりトートバッグ(赤色)をプレゼント!
- 佳作(2名)には一澤信三郎帆布よりトートバッグ(「蔓草更紗」または「木季のうつろい」)をプレゼント!

皆様のご応募をお待ちしております!

### (宛先・お問い合わせ)

京都市ごみ減量推進会議事務局 担当:北本  
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター活動支援室内  
FAX 075-641-2971 E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp



## NEWS

平成21年

### ★4月の出来事

- 4日(土)・5日(日) 鴨川さくらまつり  
菜の花プロジェクトで育てた菜の花の  
お披露目、リペア・リメイク講座開催
- 17日(金) ごみ減量事業化実行委員会
- 24日(金) 普及啓発実行委員会・  
2R型エコタウン構築事業実行委員会
- 29日(祝) 市役所前フリーマ

### ★6月の出来事

- 5日(金) 平成21年度通常総会
- 7日(日) 北区民春まつり ごみ減量啓発ブース出展
- 14日(日) 市役所前フリーマ
- 24日(水) 第1回企業向け実践講座  
レアメタル(希少金属)のリサイクル ～現状と今後～
- 26日(金) 市民公募型パートナーシップ事業審査会

### ★5月の出来事

- 1日(金)～31日(日)  
市民公募型パートナーシップ事業の募集受付
- 5日(祝) 市役所前フリーマ
- 12日(火) 地域活動実行委員会
- 15日(金) 理事会
- 31日(日) 東山区ふれあいひろば、  
伏見南部ふれあいひろば  
ごみ減量啓発ブース出展



### ★7月の予定

- 12日(日) 市役所前フリーマ
- 26日(日) 左京区民ふれあいまつり  
ごみ減量啓発ブース出展
- 29日(水) 第1回見学会「GSユアサコーポレーション」
- 31日(金) 平成20年度市民公募型  
パートナーシップ事業報告会、理事会

### ★8月の予定

- 5日(水) こどもワークショップ
- 第2回企業向け実践講座

### 京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう! No.40

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13  
京エコロジーセンター活動支援室内  
TEL: 075-647-3444/FAX: 075-641-2971  
E-mail: gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp  
URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

🔍 ゴミゲン・ネット

🔍 で検索出来ます



### 【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により1996年1月に設立した団体です。パートナーシップで多様な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。

詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

企画編集:京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会  
(会報誌・ホームページ小委員会)